

平成 26 年度「預かり保育」ニーズ調査

I. 調査方法

1. 手続き：担任を介して保護者へ質問紙を一斉配布し、各学級ポストを用いて回収
2. 調査期間：9月11日(木)～9月17日(水)
3. 調査対象：附属幼稚園小金井園舎の全保護者(配布150枚、回収131枚、回収率87.3%)
4. 質問紙の構成

- | |
|--|
| 1. ご家族について(回答者属性、子どもの性別・クラス・習い事の有無) |
| 2. 子育てをする中で感じていること、考えについて |
| 3. 「預かり保育」について(定期的な保育の希望の有無、料金・時間・内容等の希望、意見) |

II. 調査結果

1. 回答者属性について

- (1) 回答者性別 父親…1名、母親…120名
- (2) 父親勤務形態 会社員…84名、公務員…25名、自営業…7名、その他…1名、無回答…4名
- (3) 母親勤務形態 専業主婦…110名、パート・アルバイト…4名、自営業…2名、公務員…1名、その他…4名
- (4) 母親のフルタイム経験 経験あり…82名、経験なし…7名
- (5) 母親の再就職希望 希望あり…64名、希望なし…29名

2. 預かり保育について

(1) 利用希望の有無

	一時的	定期的
利用する	92名	76名
利用しない	30名	45名

(2) 利用希望理由

【一時的・利用希望理由・上位5項目】

- ①育児からのリフレッシュ ……51名
- ②在園児以外の子どもの学校行事への参加 ……36名
- ③保護者の傷病や入院 ……35名
- ④習い事や学習、趣味の時間の確保 ……35名
- ⑤在園児の学校行事への参加 ……19名

【定期的・利用希望理由・上位5項目】

- ①育児からのリフレッシュ ……48名
- ②習い事や学習、趣味の時間の確保 ……42名
- ③今後就職を希望しており、預かり先を探している ……16名
- ④保護者の傷病や入院 ……16名
- ⑤在園児以外の子どもの学校行事への参加 ……16名

※以下定期的な預かり保育利用希望者(76名)が回答

(3) 希望頻度

毎日	週2,3回	週1回	月2,3回	その他
2名	12名	23名	33名	5名

(4) 希望曜日

未定	月	火	水	木	金	その他
62名	5名	3名	5名	6名	7名	2名

(5) 希望時間

朝	4時まで	5時まで	6時まで	7時まで
10名	21名	43名	11名	1名

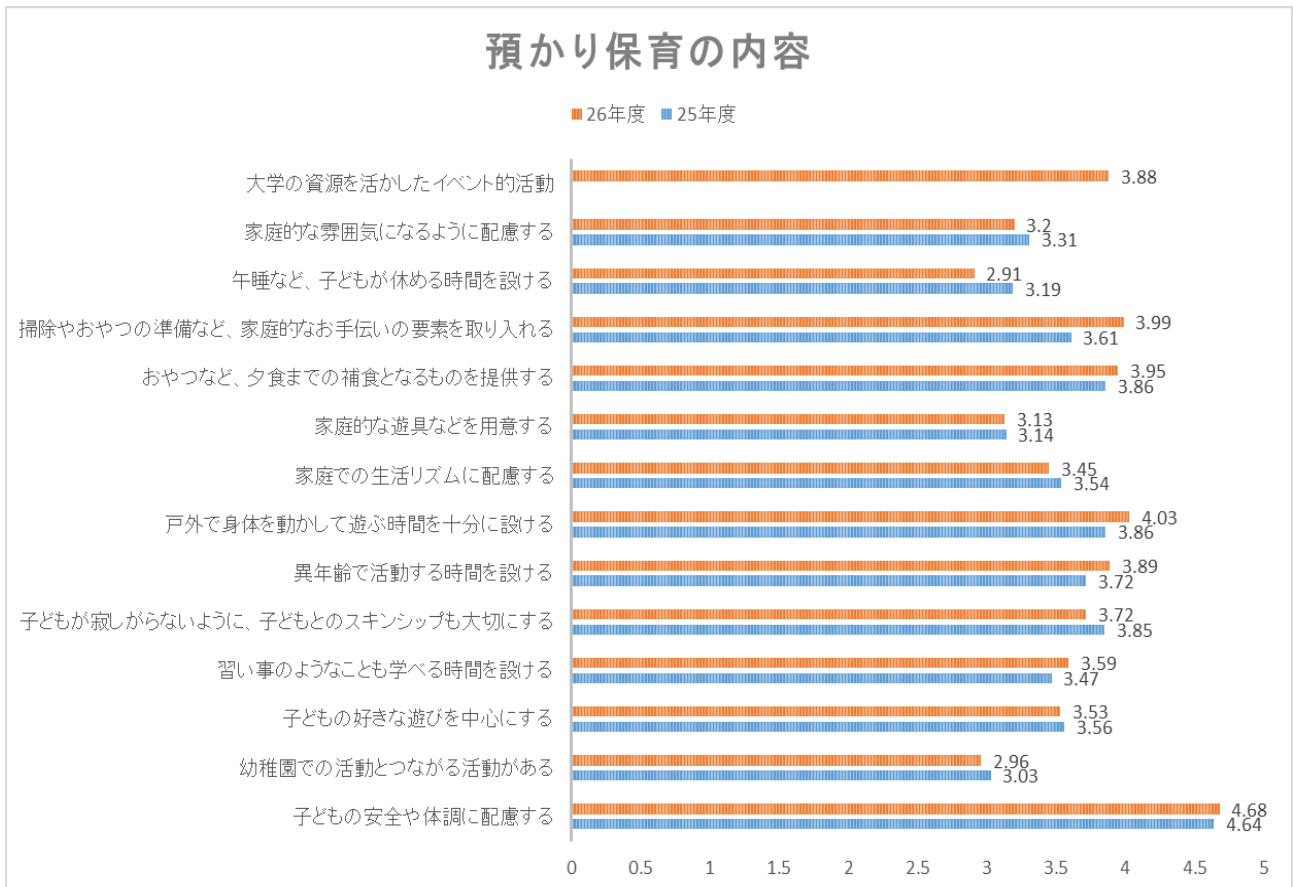
(6) 料金

	料金 500 円	料金 1,000 円	料金 1,500 円
利用する	76名	40名	5名
利用しない	0名	32名	63名

(7) 内容

預かり保育の内容の期待に関して、「子どもの安全や体調に配慮する」「その日の幼稚園での活動とつながる活動がある」等の 14 項目について「1:まったくそう思わない」「2:そう思わない」「3:どちらともいえない」「4:そう思う」「5:とてもそう思う」から当てはまるものを選択してもらいました。その全体の平均点を期待度とし Figure1 に示します。また、平成 25 年度に「大学の資源を活かしたイベント的活動」以外の項目について調査していたため、25 年度の結果も合わせて示します。

Figure1.預かり保育の内容の期待度



3. 育児感情と預かり保育の利用希望との関連

(1) 育児感情尺度の因子分析結果

解釈可能な3因子(「時間的拘束感」「育児負担感・不安感」「育児肯定感」)が抽出された(Table1)。以後は、それぞれの尺度得点を用いて分析しました。

→除外項目「預け先を探すことが大変だと感じる」は単一項目として分析しました

Table1. 育児感情尺度 因子分析結果

質問項目	I	II	III	共通性
I. 時間的束縛感($\alpha=.86$)				
自分の時間がないと感じる	.834	.310	.163	.696
子どものために仕事や趣味を制約されると感じる	.807	.313	.209	.654
1人になれる時間がないと感じる	.804	.250	.230	.649
II. 育児負担感・不安感($\alpha=.76$)				
子どものことを考えるのが面倒になる	.165	.845	-.337	.734
子どもを育てることが負担に感じる	.396	.808	-.279	.669
育児に自信が持てない	.195	.535	-.272	.295
III. 育児肯定感($\alpha=.70$)				
子どもを育てることで自分も成長しているのだと思う	.189	-.333	.948	.901
子どもを育てることは有意義ですばらしいことだと思う	.139	-.237	.571	.328
子どもを育てるのは楽しいと感じる	.060	-.340	.453	.243
除外項目				
預け先を探すことが大変だと感じる	.367	.078	.067	.140
因子相関				
	I	—	.294	.156
	II		—	-.350
	III			—

(2) 育児感情尺度と預かり保育利用希望

育児感情尺度のそれぞれの得点の平均点を Table 2 に示します。

Table 2. 育児感情尺度

時間的束縛感	3.67
育児負担感・不安感	2.34
育児肯定感	4.25
預け先を探すことが大変だと感じる	3.82

それぞれの育児感情について一時的な預かり保育の利用を希望する人と希望しない人の間、定期的な預かり保育を利用する人と利用しない人との間でt検定を行ったところ、Figure 2-Figure 5のような結果となりました。

一時的な利用においては「預け先を探すことが大変だと感じる」、定期的な利用においては「時間的束縛感」「預け先を探すことが大変だと感じる」について有意差が見られました。

⇒預かり保育の実施が「時間的拘束感」「預け先を探すことが大変だと感じる」の軽減に効果がある可能性が考えられます。

Figure 2. 時間的束縛感

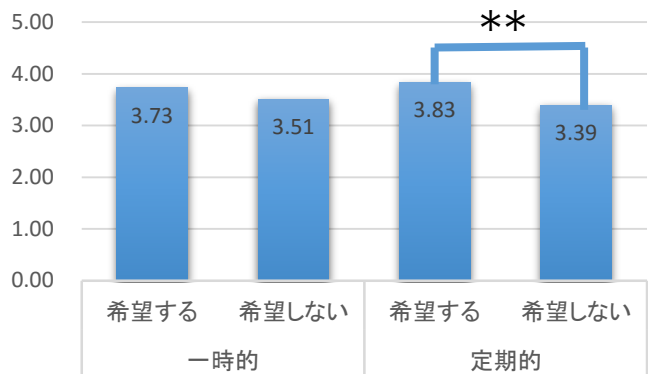


Figure 3. 育児肯定感

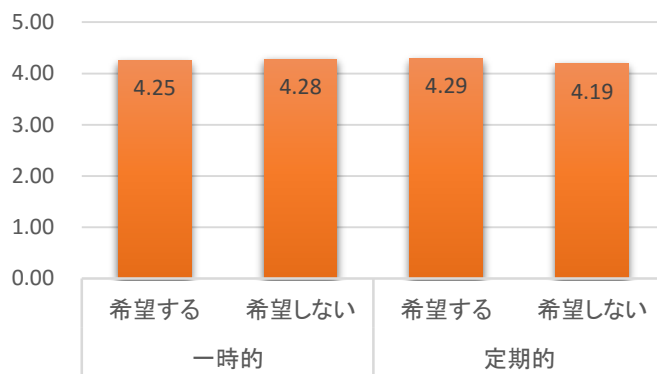
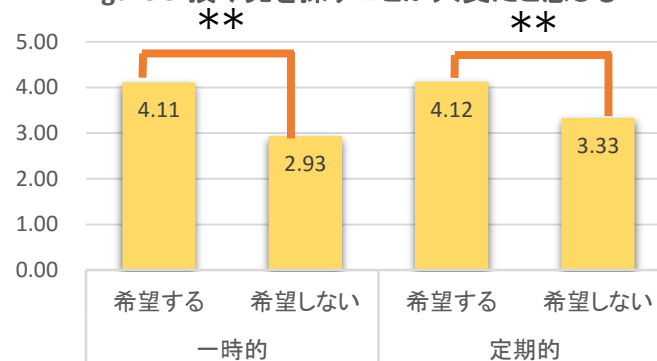


Figure 4. 育児負担感・不安感



Figure 5. 預け先を探すことが大変だと感じる



* : $p < 0.1$ ** : $p < 0.05$